七　色の孤を描いて東の空に虹がかかると、私は大きな夢で胸がふくらむ。それは、うるわしい平和の架け橋を想像させるからです。

私達が生まれ育つたなつかしい故郷天草島にも、九州本土とを結ぶ虹のような天草架橋が、いよ〳〵現実にかけられることになりました。

産業や観光など、色々な面から橋がかけられるにしても、私には空にかかる虹のように美しい夢を抱かせるのです。

×

私　が架橋の話を聞いたのは、小学校五年位の時だつたと思います。

それから、大臣や架橋関係の人々が、たびたび視察においでになりましたが、「どうせ夢のかけ橋で終るのだろう」などと話し合つている大人の話しを聞いて、どうして橋はできないのだろうかと、不思議にさえ思つていたものです。

×

工　事が順調にすすめば、私達が高校を卒業する年の昭和四十一年には、渡り初めが行われて、九州では西海橋、若戸大橋に次ぐ有料橋となり、日本名所の一つとなるわけです。

離れ島としての交通の不便さ、産業や教育などのおくれは、この架橋によつてどんなに発展することでしよう。

実現する虹のかけ橋

松島町立今津中学校　三年
岩本久美子

ま　た、キリシタン殉教の島、詩と夢の島として海外にまで知られた大小百二十余の島々からなる見事な景色は、架橋によつて更に美しくなることでしよう。

×

九　州横断国際観光ルートの一環として内外の観光客が急に増加するでしようから、架橋にともなう観光施設、観光道路の完備もおおいに急いでいただきたいものです。

私達は、もつと〳〵勉強にはげみ、国際観光地の中学生として、恥かしくない教養を身につけるように努力したいと思います。

×

と　もかく、橋がかかることによつて、すばらしい天草の発展が約束されるし、どんな姿に変つていくか、私達の心は楽しみと期待で一杯です。

交流する物資や旅客

■天草の商業革命も予想

本渡商工会議所会頭　富田義雄

島民はもとより、県民多年の念願であつた夢のかけ橋が、いよいよ起工の運びに至つたことは、まことにご同慶にたえません。

天草は水産、鉱産等の天然資源にめぐまれており、又、国立公園としてその景勝は広く知れわたつています。

然しながら、離島という交通上の不便さが大きな禍いとなつて、産業、経済、文化はもとより、島民所得の面において、県下他地方にくらべて、最も下位におかれ、後進地域として開発が進まない原因となつています。

こうした不利不均衡な隘路を〝交通革命〟によつて除去してしまうことは、ただ天草の開発にとどまらず、県勢全般の発展に極めて大きな役割を果すものと信ずるものです。

架橋の効果を考えるとき、農林特に果樹、暖地園芸作物、畜産物、水産物の輸送は極めて便利となり、その発展上大きな効果となることは明らかです。

又、石炭、陶石、石灰石等地下資源の開発、観光客の増加、これに加うるにホテルや道路、港湾等の改善整備拡充を促進することにより、天草郡内の商工観光面の効果はまことに大きなものがあります。

又一方、物資や旅客の交流、外来資本の導入による〝商業革命〟も予想されますが、この革命こそが、私たち郡内商工業者の後進性からの脱却、生活水準の向上への好材料となるものと信じ、架橋に大いに期待しているものであります。

今後いく多の困難がありましようが、これを克服され、最高の技術陣によつて、架橋完成の一日も早からんことを祈ります。

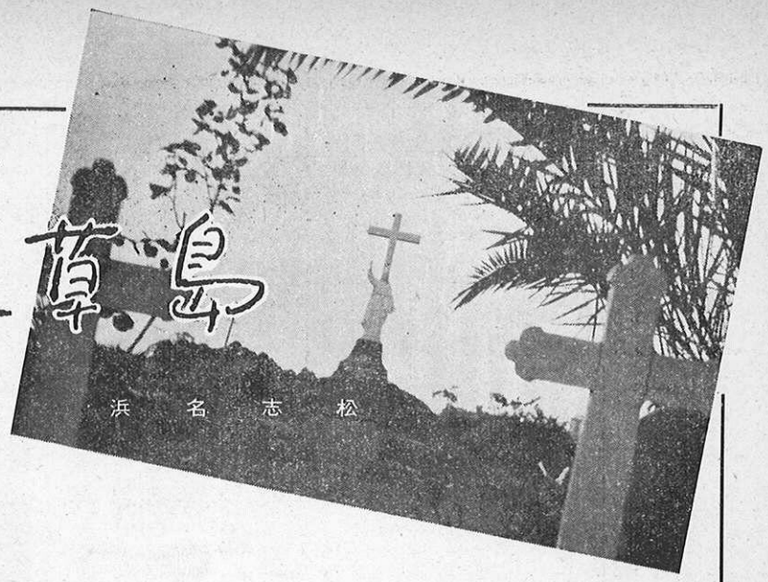
× × ×

は、共同出荷体制により、トラックで極めて短時間のうちに熊本市場へ出荷することができ、これまで以上に新鮮な魚を皆さんに食べていただけるわけです。

架橋完成の一日も早からんことを、漁民一同念願するとともに、架橋実現に努力されてきた関係各位に深い敬意と感謝を捧げる次第です。

くずいひつつ

天草島



浜名志松

人は天草を〝夢の島〟という。しかし美しい風光の中には、昔から苦しい離島の暮しがあつた……

天草島は、昔から肥前、肥後、薩摩といつた雄藩の中に囲まれており、為政者もひんぴんと交代して、その住民は受難の歴史をたどつてきている。そのうえ、離島ということは、天草島の宿命となつて今なおまつわりついているのである。

そうした永い年輪の中に、天草人の背骨が鍛えられてきたとも言えるが、天草島のもつ最大の悩みは、やはり離島であるということであつた。

×

私は天草をさしていう〝夢の島〟という表現は極度にきらいだが、西海岸の男性的壮大な海洋美、瀬戸内海をしのぐ東海岸の景観、大矢野一帯の多島的な美しさ、岩礁、曲浦、白砂、長汀……。

これはたしかに、九州にもまれな自然の景観であろう。

天草洋の入り陽を見て、与謝野寛は次のように歌っている。

天草の十三仏の山に見る
海の入り陽とむらさきの波

数年前、九州文学散歩を執筆に来た詩人の野田宇太郎氏と、天草町大江のキリシタン墓地から羊角湾や天草洋を望んだ時「浜名さん。これはなんとすばらしい景観でしよう。こんなに詩情をかきたてられたのははじめてです。」と云われてながくたゝずんだことを今も忘れない。

×

〝夢の島〟という美的表現の裏には、「カライモ」と、「天草女」というのが天草の代名詞になつている。やせた岩山が、中腹まで耕やされている段々畑は、たしかに天草の生活のきびしさを物語つている。しかし、それも天領下の圧政に堪えて生きぬいてきた、島民の勤勉と努力の結晶であつたはずである。

天草女にしても、何とか働いて少しでも生活を豊かにしようとして、海外をめざして出て行つたのである。

彼女らを、ただ無智である故に、だまされて行つたとさげすむのは、あまりにも酷である。

×

今度の天草架橋の実現で天草が開発され、少しでもこの島が豊かになつていけば、異国の地に眠る彼女たちの霊も慰められるであろう。

世の常の磯の香なれどあはれなる
船より下りし天草の島

与謝野晶子の歌にも、天草島のもつ悲劇性が歌われているが、天草架橋の実現は天草を永年の桎梏から解放し、その人間開発と相まつて、漸次生まれかわつていくであろう。

産業経済の後進性は、急ピッチで払拭されていくであろうし、眠つたまゝの観光資源も百パーセント利用されていくに違いない。

×

天草は、文化的にもまだ不毛の地に等しい。

架橋を伝つているいろ〳〵な血液によつて、これまで枯渇していた文化的土壌も、うるおされていくことであろう。

天草人としてこんなにうれしいことはない。

〈はまな・しまつ／教育庁天草地方出張所勤務・指導主事〉